

A-3 学校研究の取り組み

<活用力の育成のために今年度行った具体的な実践内容>

Research

○活用力に関する子どもの実態把握

- ・昨年度の学力調査より（全国・県・市）
- ・校内活用力プレテスト（2～6年、5月実施）

○活用にに関する子どもの意識調査（年3回）

例 なぜそうなるのか、どうしたらいいだろうなどと考えてみるのが好きですか

Plan

○<くめざす子どもの姿>の設定と具体化

『つなげて、考え、説明できる子』

- ・低中高学年の系統表を作成
- ・教科（国、算、社、理）での姿を具体化
- ・「活用の木」によるポスター掲示
→学校研究オリエンテーション（全校集会）



<こんな手立てで>

1. 問題解決型の授業設計と考える場の保障
2. 課題設定を工夫
3. 活用のよさを実感できるふりかえり

Do

○考えを表す言葉の掲示（教室、学習室等）

- ・自分の考えとその理由をわかりやすく説明するための話し方や言葉の例示
- ・授業での子どもの発言をカード化、掲示

まず、次に、だから、もしも、たとえば、似ていて、違って、言い換えると など

○考えをまとめて書く場の設定

- ・自学ノートのすすめ（家庭学習の工夫）
- ・レポート作成（理科や算数）、新聞作り（社会、国語、生活など）



○実践事例集の作成（シート記入で）

4年算数「円と球」

<ボールがたくさん入る箱は？>

単元の終わりに、学習したことを使って考えさせた箱のたて・横の長さやボールの直径がわかればよいことに気づき、学びを活かして課題を解決することができた。

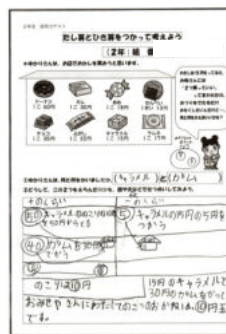
- 例 1年算数…計算カード並び方のひみつを見つける
2年算数…2ケタの筆算の仕方を絵や図で説明する
3年国語…キーワードを手がかりに段落のつながりをつかむ
5年社会…資料をもとにこれからの日本の農業を考える
6年社会…理想の公民館を考え、市への要望書を作成する



○活用力自作テストの作成と評価

- ・学期に1回の自作テストとルーブリックを作成

評価観点	問題の目標理解	考え方	説明の仕方	発表・表現
問題理解	回答者の名前がわかっている	問題文書の中につまみかきをするなど、問題文をよく読んで考えている	できるだけ自分の考えをわかりやすく説明している	話しが聞いている
A	問題文のつづきや条件をよく読んで考え、必要な情報をまとめている	自分の考えが正しいかどうか、理由を挙げて説明している	話し言葉だけでなく、図や表を用いて説明している	話しが聞いている
B	自分で考えた方法や答えを、相手に説明している	自分の考えを、友達や先生に説明している	話し言葉だけでなく、図や表を用いて説明している	話しが聞いている
C	自分の考えを、相手に説明している	自分の考えを、友達や先生に説明している	話し言葉だけでなく、図や表を用いて説明している	話しが聞いている



Check

こんな子どもの姿が目立ってきた！

◎成果

- ・つなげて考えることを意識する
例…半具体物と図、友だちと自分の考え、課題と既習内容 等
- ・理由を考えて話そうとする
- ・絵や図、表やグラフなどを用いてかく
- ・既習内容が身に付いてきた

△課題→原因分析すると…①学ぶ意欲の低下②学び方のスキル

- ・考えたり説明したりする意欲や相手・目的意識をもちにくい
- ・友だちやグループの中で、自分の考えをすすんで話せない
- ・どのように考えたり説明したりすればよいか、戸惑っている

手立てや支援のポイントになったのは？

- ①つなげて考えさせる場
- ②「活用の木」「考えを表す言葉」掲示
- ③既習内容をいかし学ぶ場

Action

- ・考えたり説明したりする意欲づけの工夫（課題設定の仕方、相手・目的意識の設定）
- ・学習形態（ペア・グループ）の工夫
- ・発表の機会の充実（全員が話せる工夫、相互評価の工夫）

